

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	同じ空間で過ごす時間が長くなるにつれ、ご利用者への言葉遣いや対応について、人格やプライバシーへの配慮が希薄になりがちである。	ご利用者の人格や希望を尊重したケアを行っているか、自身の対応を意識的に振り返る。不適切な対応がみられた場合にスタッフ間で指摘できる関係性の構築を図る。	スタッフ会議等を活用し、具体的な対応例について適切・不適切の検討を行い結論を出す。個々が発言することでそれぞれの思考を周囲が理解していく。回数を重ねるうちに、指摘しあえる関係性が構築されていく事を期待する。	12ヶ月
2	6	通常のケアや生活環境の中に身体拘束とみなされ得るものが存在することを、スタッフが気付いていない(知識が無い)場合がある。	身体拘束に関する知識を深めるとともに、日々の環境の中にそれが存在しないか疑問を持つ。不適切とみなされ得る環境やケア(玄関の施錠等)について、仕方ないと割り切るのではなく取り除くための方策を協議し続ける。	事業所内の研修等を通じ、身体拘束に関する知識を深める。沸き起こった疑問については行政に確認するなどして回答を周知する。スタッフ会議等を活用し、不適切とみなされ得る事案についての問題提起や解除の方策の検討を行う。	12ヶ月
3	2	事業所が地域の一員として日常的に交流できているかという点、頻度や範囲において不十分であると考ええる。	ご利用者が地域とつながって暮らし続けられる環境を提供するため、管理者が先頭に立って社会資源の情報を収集し、新たな関係構築を図る。	地域包括支援センターや社会福祉協議会などからボランティアや催しの情報を得る。ご入居者の希望にも配慮しながら新たな社会資源との関係構築を行っていく。	6ヶ月
4	1	事業所理念は企業理念に合致したものではあるが、地域密着型サービスの意義が十分に踏まえていないと考える。	現在の施設理念に、地域密着型サービスの概念を付け加える。スタッフの意見を集約し、納得できる理念に変更する。	スタッフ会議等を通じ、施設理念の変更の必要性を説明する。意見を集約し、皆が納得できる施設理念に変更する。	3ヶ月
5	49	ご入居者の状況や人員の状況を理由として、外出の機会が十分に確保できていないと考える。	ご利用者が希望に沿って外出できるよう、その機会の確保に努める。	ご入居者担当のスタッフを中心として外出先等の希望の把握に努め、外出援助のためのシフト調整を工夫する。また必要に応じてご家族や地域の方々に提案し、協力を得る。	6ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。